我等行く手の

令和４年度
12月号
利根商
進路だより

●はじめに

みなさんこんにちは、長かった２学期も気付けば今日で終わりですね。利根商では多くの３年生が進路決定を果たしていますが、実は大学入試はこれからが本格的なスタートです。そこで、12月号は大学進学特別号として大学入試について詳しく見ていきたいと思います。

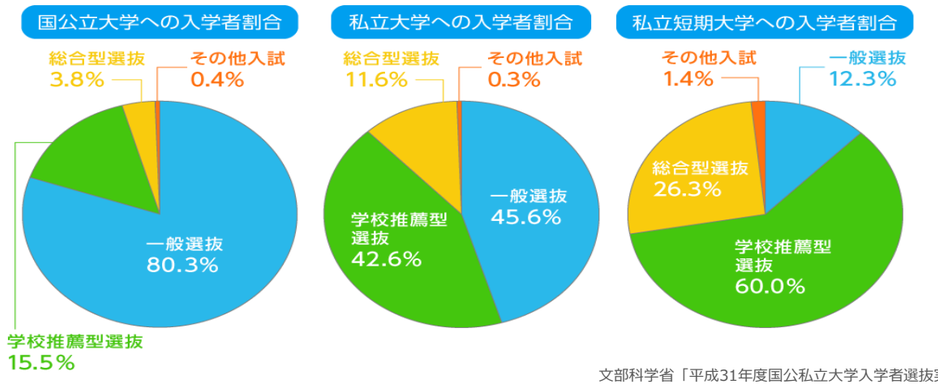
●大学入試の種類

大学に進学するための入試方法は大きく３種類に分けられます。

総合型選抜	かつてのAO入試。「大学が求めている学生を選抜する」試験であり、意欲や熱意を大学に強くアピールする必要がある。
推薦型選抜	学校長の推薦が必要で、高校の学習状況（評定平均値）や課外活動など日頃の努力を評価して選抜する。指定校推薦と公募推薦がある。
一般選抜	筆記試験の結果のみで合否が決まる一発学力勝負。

●入試の割合を知ろう

国公立大学では、一般選抜の入学者が全体の8割以上を占めるのに対して、私立大学では約5割、私立短期大学では2割以下と割合が小さくなっていきます。反対に学校推薦型選抜や総合型選抜の割合は国公立大学が一番小さく、続いて私立大学、私立短期大学の順に大きくなります。私立短期大学では入学者の8割以上が学校推薦型選抜・総合型選抜で入学しています。



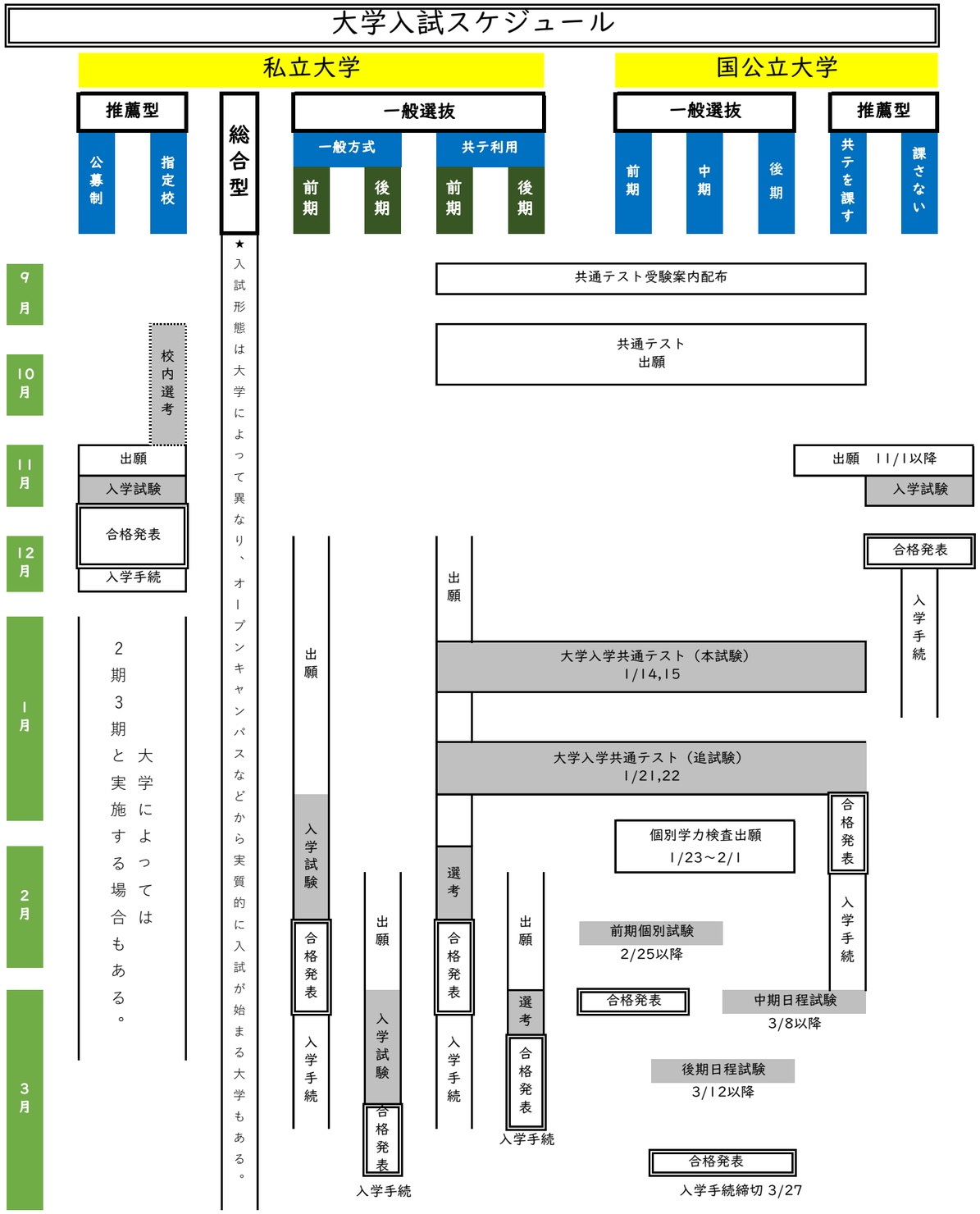
文部科学省「平成31年度国公私立大学入学者選抜実施状況」
文部科学省「平成31年度国公私立短期大学入学者選抜実施状況」

●違いを詳しく知ろう

point1：総合型選抜と学校推薦型選抜の違い
一番大きな違いは学校長の推薦が必要⇒推薦型、必要なし⇒総合型。また、総合型選抜では評定基準が求められないこともあり、より大学への熱意が重視されるといえる。
point２：指定校推薦と公募推薦の違い
指定校推薦は主に私立大学が特定の高校を指定して実施する。成績や出席状況などを基に１０月に校内選考→１１月試験。高校を信頼して枠がもうけられるので校内選考を通過して出願できれば合格率は高い。ただし、入学後の取り組みが次年度以降の枠に関わるので責任が重いことを自覚しよう。公募推薦は大学の求める条件を満たしていれば、どの高校の生徒も出願できる制度で、国公立大学含め多くの大学で行われている。ただし、全国の受験生がライバルになるので、指定校制に比べると合格の難度は高めになる。
poimt３：国公立と私立の一般選抜の違い
国公立大学では５教科の受験が求められることが多い。必ず大学入学共通テストを受験し、その後前期・中期（公立のみ）・後期の各１校まで個別試験を受験、その総合成績で合否が決まる。私立は３教科が基本で文系は英語、国語のほか地歴・公民や数学から１科目選択、理系学部では英語、数学、理科というパターンが一般的。２月を中心に各大学の指定した日に大学や指定の受験会場で受験する。

●入試スケジュールを知ろう

下の入試スケジュールを見て分かるように総合型選抜は夏休み頃から実質スタートし、推薦型選抜は２学期が中心です。そして、一般選抜が本格化するのが３学期です。１、２年生の皆さんはなるべく早めに志望校を決定して自分に合った選抜準備に取りかかれるようにすると良いですね。３年生はこれから一般選抜が本格化することを考えれば、多くの高校３年生が今必死に勉強しているということです。合格が決まった生徒も大学入学後を見据えてこれからも勉強を続けてください。



「令和5年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」「国立（公立）大学の2023年度入学者選抜についての実施要領」